

〔記者の皆様へお願い〕

ユキヒョウは新しい環境に慣れるまで時間を要することから、写真撮影を伴う取材等につきましては、一般開放の時期に合わせて対応させていただきます。取材が可能となる時期につきましては、後日お知らせしますので、ご理解とご協力をお願いいたします。

＜ユキヒョウ受入れの目的＞

遊亀公園附属動物園では、今後の環境教育を推進するにあたって、希少種であり環境保全を訴えるのに適した動物であることから、今般、東山動物園（名古屋市）からユキヒョウを迎えることとなりました。

＜国内のユキヒョウについて＞

- ・円山、旭山、群馬サファリ、多摩、いしかわ、浜松、東山、南紀、王子、熊本（熊本地震により大牟田市に一時避難中）の10園で飼育され全国に**21頭**（平成27年12月調査時点）しかいない希少動物である。
- ・ヒョウの中では最大の大きさとなり、美しい姿から、国内でも人気が高い。

＜搬入時期と公表＞

搬入時期：**平成29年3月6日（月）**

平成28年12月12日に搬入予定であったが、搬入元の東山動物園で鳥インフルエンザが発生したため、延期となり、再調整を行った。

※慣らし飼育のため、しばらくは屋外に出る時間帯は不規則

＜効果＞

冬季に、体毛が12cmになり模様が美しく映えるため、冬季の集客に繋がると期待できるとともに、大変希少な動物の生態を知ること、生物多様性への理解から市民の「環境教育」が促進される。なお、全国にユキヒョウファンもいることから、観光客の集客にもある程度寄与できると考えられる。



※画像はイメージです。

＜個体情報＞

名前：ミュウ（神戸市立王子動物園所有個体）
 性別：メス
 年齢：13才 平成15年5月生まれ
 ※平均寿命：野生15年、動物園約20年

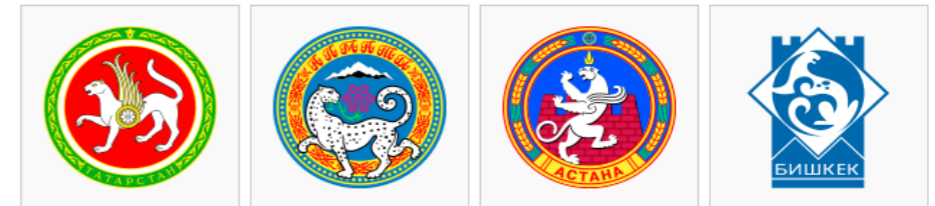
ユキヒョウってどんな動物？

名前：ユキヒョウ 英名Snow Leopard
 分類：食肉目（しよくにくもく）（ネコ目）ネコ科
 学名：Uncia uncia

- ・絶滅危惧種のため、ワシントン条約などで商取引が制限されている。
- ・ライオン、トラやヒョウと同じ「ヒョウ亜科」でも、ユキヒョウのみの独自の「ユキヒョウ属」に分類。
- ・標高600-6,000メートルの中央アジアに生息。
- ・生息数：3000～5000頭（野生の姿を目にする事は稀である）
- ・現地では毛皮としての需要や、家畜を襲うなどの理由から乱獲されている側面もある。
- ・生態は、標高600～6,000メートルにある岩場や草原・樹高の低い針葉樹林などに生息する。
- ・獲物や積雪にあわせて夏季は標高3,000m以上の高い場所へ、冬季は標高の低い場所へ移動する。
- ・夜行性だが、昼間に活動することもあり、岩の隙間や断崖の上などで休む。



生息域の民族や国家によって、重要な生物とみなされており様々な紋章や意匠に利用されている。



タタールスタン共和国の国章 カザフスタンのアルマトイの市章 カザフスタン首都、アスタナの市章 キルギスの首都、ビシュケクの市章